

根ほり 葉ほり



生き方の素敵なあの人、今、注目のこの人に
“節度ある好奇心”をもって徹底インタビュー

私のスローライフ農業

四街道市 佐藤 捨吉さん

どうして農業をはじめたの？
山形の出身なのになぜ千葉で？
畑はどんな広さ？なにを植えているの？
「きらこ」の????に佐藤さんが
こたえてくれました。

私は、現在68歳、昭和五十二年、民間から習志野市役所に技術職として採用され、企業局を振り出しに5部を渡り歩き、約三十年間可も無く不可も無く、谷津干潟自然観察センターを最後に、無事務めさせていただく事ができました。先ずはお礼を申し上げます。

さて、私のスローライフ農業を始めるきっかけは。定年後、私の故郷である山形県に期間限定で帰り、生家の土地を利用した山菜農園でもやりたいなどと構想を練っていました。いざ行動に移すととなると妻の承諾なしでは実行に移せず猛反対にあい、簡単に挫折、以後3年間市役所で再任用職員として勤務1年が経過したとき、人間ドックにて、胃がんが見つかりショックで、暫くは落ち込みました。しかしいつまでも落ち込んではおれず決断、胃を3分の2切除、2か月間休職、職場復帰後、体重が15キロ程ダウン、術後半年が過ぎたころ、今後の健康管理を考え

た時、家庭菜園でもやってみようかと、種類を選択、**落花生**①ジャンボ落花生②千葉半立ち③ナカテユタカ④郷の香⑤黒落花生、**サツマイモ**①紅東②紅はるか③パールスイートロード④安納芋⑤紅マサリ⑥鳴門金時、全て苗作りから。**サトイモ**①土垂れ②吊乙女、**スイカ**①モスラの卵②姫ゴジラの卵(イタリアのスイカ)③チャールストン・グレイ(フランスのスイカ)、**地方野菜**①まくわうり②大葉高菜③金ごま④単人瓜⑤ヤーコン等。**イタリア野菜**(10種類程度)他多彩な種類を作っている。

果、5年目で15000平方メートル(5反歩)現在2200坪、年間60種類程の野菜を栽培、作ることへのこだわりは無農薬・減農薬有機栽培が基本と考え、自然循環型の農業をめざした堆肥やもみ殻燻炭を作り、畑土改善に取り組み現在7年目に入ります。5年目からは野菜の宅配サービスも開始、年6〜7回配送を行っています。安心・安全な野菜が評判となり昨年から千葉市内の直売所への出荷、農場の運営費を得る事ができるようになりました。生産する野菜は、農家と重複しない

ちなみに、今年のニューフェイスは

近くの友人を訪ね農家を紹介してもらいました。土地が空いているので貸してもいいよと言われ、そこで、畑を30坪程賃借できないかと交渉、30坪は貸せないけど、300坪なら貸すとのことと始めたのです。当時はびっくりの広さで自分に出来るのか心配でした。

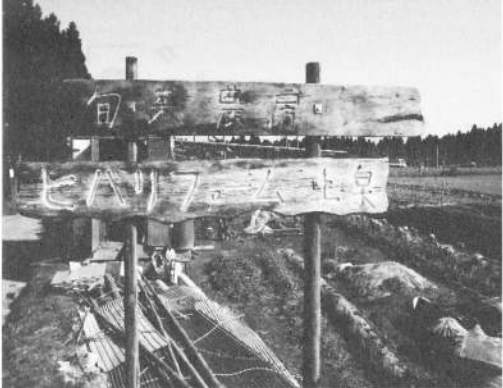
農場の名称は旬菜農房「ヒバリファーム上泉」。賃借した畑の初めての春、畑にたたくずんでいたところヒバリが畑の上空でホバリング。ピーチクパーチク、さえずり、これだと直感。町の名称が上泉町であることから命名しました。

当初2年間は、週3日畑作業、その後、某自治体が主催する市民農業大学を一年間受講それが現在の原点です。がむしやらに様々な種類の農産物を作りました。(その間5年間は術後の定期健診)。再発の恐れはなくなり、それが農業に深く入り込むきっかけともなりました。作物を作る面白さに虜になり、毎年300坪ずつ拡張した結果

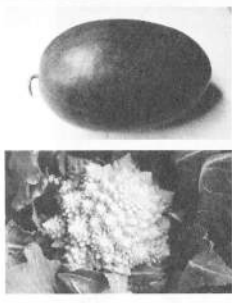
食用ほおずき(イタリア)と、従来からあったまくわうりを栽培、栽培見通しがついたので、次年度から大量栽培予定。女性をターゲットにデビューさせようとしている。

昨年話題は、食用菊「もつてのほか」を栽培。語源は二つあり「もつていないほど美味しいから他人には上げられない」「天皇家の家紋を食べるとはもつてのほか」である。(原産地は中国、名称・延命菊)昨年10月NHKテレビ生活情報番組「ひるまえほつと」で取り上げていただき、すごい反響がありました。

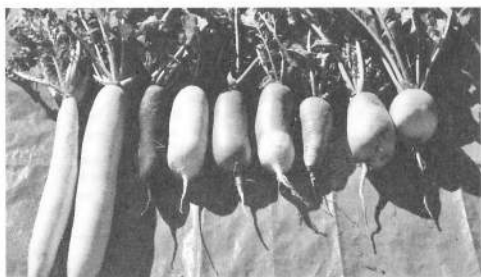
一人農業は覚悟が大事で、すべてひとりでやること。最初に作ったのは農業資材を保管するアルミ製倉庫、雨水タンクの設置、(ドラム缶は友達の家から15本を無料で譲り受け)2年目に手作り休憩小屋建設、次に作業小屋を設置、出荷作業は天候に左右されず出来るようになり、スローライフから想定を超えた農業になりそうです。



サツマイモ種芋熱湯消毒



イタリア野菜口マネスコ



オールスター大根